



架け橋

第2号

(令和4年5月2日発行)

ホームページ: <http://mihashi-j.saitama-city.ed.jp/>

E-mail: mihashi-j@saitama-city.ed.jp

学校教育目標 : ゆたかに・かしこく・たくましく

「魔法の言葉」

校長 芳崎 正道

茶摘み

夏も近づく八十八夜

あれに見えるは

あかねだすきに菅 [すげ] の笠

野にも山にも若葉が茂る

茶摘みぢやないか

(尋常小学唱歌)



ハス (生徒会室前)

風薫る五月となり、八十八夜（今年は5月2日）を迎えます。「夏も近づく八十八夜～」という「茶摘み」の歌詞がふと頭をよぎりました。春から初夏にかけてさわやかさが五感に伝わり、すがすがしい季節となりました。

三橋中学校に着任してから、一年一ヶ月になります。すがすがしい季節に、さらに一日をすがすがしくさせてくれるのが「魔法の言葉」と感じています。

それはたった一つの言葉なのに、元気や勇気をくれる時もあれば、反対に、元気を奪ってしまう時もある言葉で、「おはようございます」などのあいさつです。誰もがいつも使っている言葉で、とても短い言葉ですが、多くの人たちに勇気や元気を与える言葉と改めて感じます。

「おはようございます」。校内ですれ違つと、本校の多くの生徒の皆さんは、自分から進んで「おはようございます」とあいさつをしてくれます。中には、自分から進んで言ってくれたり、目を見て、にっこり笑って、「おはようございます」と声をかけたりしてくれる人もいます。そんなあいさつと出会うと、心がすがすがしくなつて、今日も一日がんばろう、大変なこともあるけれど、乗り切つていこうという気持ちが湧いてきます。

さて、新型コロナウイルス感染症防止のため、マスク着用での学校生活が続いています。顔を合わせて話をしても、マスクのため、表情があまりよく読み取れなかったり、マスク越しのためか、会話も、聞き取りにくかったりします。そんなマスク生活のためか、大変残念ながら、先生が「おはようございます」と言っても、小さな声であまり聞こえない人や、何も返事をしてくれない人も時にはみかけます。そんなときは、「体の調子が悪いのかな」「嫌なことがあったのかな」「何か悩み事があるのかな」「どうしたのだろう」と色々考えて、寂しい・悲しい気持ちになったり、とても心配になったりします。

このように、あいさつは、たった一つの言葉なのに、人を元気にすることもできるし、人の元気を奪ってしまうくらい「魔法の力を持った言葉」なのです。

あいさつが自然と発せられ、習慣となることで、日々、子ども、教職員、保護者の方々、地域の方々など、三橋中学校にかかわる全ての人たちが、すがすがしい思いで過ごすことができます。昨年述べた「目・耳・心でコミュニケーションを」という言葉。その第一歩がすがすがしい「魔法の言葉」と思います。

生徒の皆さん、この「魔法の言葉」を、よいことに使いましょ。皆さんが、一人ひとり、もっともよいことに使うことが出来れば、お互いが毎日すがすがしい学校生活を送ることが出来ます。新型コロナウイルス感染症防止体制が今後もしばらく続きそうな状況のもと、今こそ、コミュニケーションを図っていく際に、とても大切な心がけと思われれます。

人を元気にし、勇気を与えられて、温かい心が詰まったあいさつでみちあふれた学校にしていましょ。

「目を見て いつも笑顔で 自分から = 挨拶名人」(校内掲示)

